

第 1 回津波浸水想定検討委員会の結果等について

計算対象の候補となる断層・ケース

発生が想定される断層として、「日本海における大規模地震に関する調査検討会」による全 60 断層 253 ケースから、以下の断層・ケースを選定

F20LRLR	F24LLLR	F24LLRR	F49右側	F49中央	F49LLR
F49LRR	F52LRR	F53左側	F53中央	F53LLR	F54右側

計算条件

以下の計算条件を設定

項目		設定内容	
潮位（天文潮）	海域	朔望平均満潮位	
	河川	平水流量を基本とし、平水流量の設定がない河川については沿岸の朔望平均満潮位と同じ水位	
計算領域及び 計算格子間隔	計算領域	別紙のとおり	
	計算格子間隔	10m、30m、90m、270m、810m	
各種施設の取扱い	地震動・耐震性調査あり	調査結果に基づき設定	
	地震動・耐震性 調査なし	コンクリート 構造物	地震と同時に破壊
		盛土構造物	地震と同時に 75%沈下
	地震動・震度 3 以下	破壊・沈下しない	
	津波	越流と同時に破壊	
	水門	確実に操作が可能な施設は閉鎖としそれ以外は開放	
地震による 地盤変動	陸域	沈降量を考慮し、隆起量は考慮しない	
	海域	沈降量・隆起量ともに考慮する	
河川内の津波 遡上の取扱い	対象河川	河口での河川幅 10m以上の河川	

主な意見と対応経過

委員会での意見

F20 や F24 等の断層について、マグニチュードを高く設定してシミュレーションを行ってはどうか。

国との協議・確認内容

津波防災地域づくり法に基づく浸水想定は警戒区域の指定や私権制限につながるものであり、科学的な知見なく過大に評価することは認められない。

対応

法定の浸水想定として設定を行うため、国で提示した断層モデルを活用する。

委員会での意見

京都府に大きな影響があると考えられる F49 断層について、近隣に F48 断層があり、これら2つの断層が連動して動くことも考慮する必要がある。連動した場合の浸水シミュレーションを実施するかは次回の委員会で検討を行うので、沿岸の津波高の試算を行うこと。

国との協議・確認内容

国の検討会では最大クラスの津波を想定するため、同一の断層と考えられるものは可能な限りグルーピングしている。これ以上断層を繋げることは過大な評価になる。

また、連動して同時発生することも可能性が非常に低く、同様に過大な評価となるため、認められない。

対応

F48、F49 が連動した場合の津波高を試算（別添参考資料）。

津波高は従来の F49 単独の場合とほぼ同程度。同一の断層としての評価については、現在進められている日本海地震・津波調査プロジェクト（文部科学省）の結果を待ち、検討を行う。

委員会での意見

各断層について、国の検討会で逆断層・横ずれ断層という設定が行われているが、京都府に影響がある断層がこれらの境界付近にあるため、どのような考え方で設定されているのか確認を行う必要がある。

国との協議・確認内容

断層の逆断層・横ずれ断層の設定については論文「The 3-D tectonic stress fields in and around Japan inverted from centroid moment tensor data of seismic events (Terakawa & Matsu'ura 2010)」に基づき設定している。

検討会において同論文の内容を精査の上、活用することとしており、これ以外の考え方に基づいて断層モデルを設定する場合は、新たな科学的知見に基づくものである必要がある。

対応

国の検討会で議論され、考え方が整理されており、京都府においてもこの検討結果を活用する。

【委員会後の意見】

委員からの意見

最大クラスの津波を選定するにあたり、現在の案では津波の高さのみに着目しているが、津波高が低い津波でも到達時間が早いものについてはシミュレーションを行ってはどうか。

対応

到達時間が早い津波についても検討を実施（資料2）

委員からの意見

施設の取扱について、震度4以上の施設で耐震性照査を行っていないものについては破壊することとなっているが、震度に応じて、段階的に破壊の程度を変更することを検討してはどうか

国との協議・確認内容

原則は耐震性照査を行うことが前提であり、できていない施設については安全側に配慮し、一律破壊することとしている。法に基づく浸水想定は避難等のソフト対策を念頭に置いたL2津波としているため、このような考え方になっている。震度ごとに段階的に破壊するという考え方は明確な基準がなく、設定は困難

対応

震度4以上の施設は破壊することとして条件を設定する。

【参考】第2回、第3回委員会での協議事項

第2回委員会（H27年9月14日開催）

- 最大クラスの津波の設定
 - ・過去に発生した津波の整理
 - ・発生が想定される津波と過去に発生した津波の比較検討
- 計算条件の設定
 - ・計算時間の設定
 - ・地形データの設定
 - ・震度の想定

第3回委員会（H27年12月頃開催予定）

- 計算結果の確認
- 公表資料等の検討

